

期末テストが終わり館内では
図書委員会がツリーを飾りました。
冬休みの特別貸し出しもはじまりましたので、
冬休みになる前にぜひメディアセンターへ。



■ 今月の新着図書から ■



『SF マンガで倫理学』 分類 150

萬屋博喜 / さくら舎

手塚治の『火の鳥』、諫山創の『進撃の巨人』など、SF マンガでとりあげられるクローン人間や善悪を判でけるロボットなど、倫理学の面から捉える試みをしています。漫画研究の視点からみても面白い一冊です。



『さあ、化学に目覚めよう』 2024 年 11 & 12 月号 後期生 風・住宅民家』 分類 757

ケイト・ビバードー

化学オタクを自称する著者が、化学にときめいて欲しい!という願いこめて書いた本。この火をふく表紙は本人だそうです。料理、洗濯、食事...身の回りのさまざまなことが化学と結びついていることがよくわかりますよ!



ー / エクスナレッジ

建築の本かと思いきや、配色デザインの本なのです。日本では見かけないようなカラフルすぎる家々には、まるでおとぎの国か絵本の世界のように。住んでみたい色のある家があるか見てみて下さい



『凱旋』 分類 783

小田凱人 / ぴあ

パリパラリンピックの車いすテニスで金メダルを獲得した小田選手。プロのサッカー選手を夢みていたが、9歳でガンになり、夢を断念。いかにして気持ちを整え、車いすテニスで世界の頂点を目指すことができたのか。その心の軌跡をたどる



『人魚がにげた』 分類 913

青山美智子 /

歩行者天国の銀座に人魚が逃げた。そしてその人魚を探す王子さま。

これまでもほのぼのとした人間模様を書いてきた青山美智子の最新作です。各章で銀座を行きかう登場人物たちが王子と出会い、人魚探しにどう関わってくるのか?表紙もぜひ眺めてね!



『森にあかりが灯るとき』 分類 913

藤岡陽子 / PHP 研究所

看護専門学校で学んだ経験をもつ著者だけあって、医療や介護現場の描写がとてリアルです。少子高齢化がすすむ日本での介護現場の課題をつきつけた内容ですが、後半は未来型介護を目指す若者たちの姿も描かれていて、希望を感じさせます。

たにかわしゅんたろう
詩人 谷川俊太郎さん 特設コーナー

日本を代表する詩人、谷川俊太郎さんが11月13日に92歳で亡くなりました。

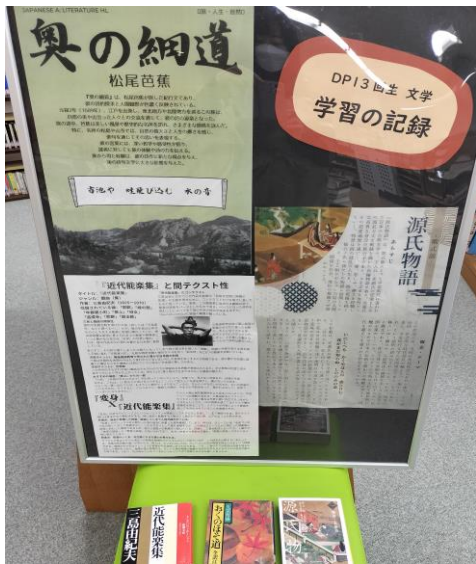
教科書はもちろん、絵本『スイミー』の翻訳など、多くの作品を残し、子どもから大人まで、世代をこえて親しまれた方でした。

谷川さんの名前を忘れていた人も、「かっばかっばらった・・・」と有名な詩の冒頭を聞いただけで、すぐに思い出したようです。

現在館内に特設コーナーを設けましたので、期末が終わってほっとした束の間、谷川さんの詩を読んでみませんか？



DP13回生「学習の記録」展



DP6年(13回生)が文学で学んだ「学習の記録」を1枚のポスターとして発表し、メディアセンターで展示中です。DP生がどういう作品を読み、どんな学びが得られたのか、これからDPコースを考えている人はもちろん、DP以外の人にも、DP文学の学びを知るいい機会です。学習で取り上げた文学作品もポスターとともに展示しています。こちらは貸出しをしますので、冬休みに読んでみたい人はぜひどうぞ！

<13回生がDPで学習した文学作品>

『人形の家』イプセン、『変身』フランツ・カフカ、『ペルセポリス』マルジャン・ツサトラピ、『奥の細道』松尾芭蕉、『源氏物語』紫式部、『近代能楽集』三島由紀夫、『砂の女』安部公房、『わたしを離さないで』カズオ・イシグロ、『ころ』夏目漱石、『智恵子抄』高村光太郎、『自選谷川俊太郎』谷川俊太郎、『父と暮せば』井上ひさし

本棚 詩人、谷川俊太郎さんが先月亡くなりました。昔から今と変わらぬ風貌で、このままずっと詩を書き続けてくださるように思っていました。日本では短歌や俳句もあり、「詩」がさほど身近には感じられていないと聞きますが、谷川さんの詩は子どもから大人まで、思わず口ずさみたくなるような言葉の巧みさがありました。亡くなる約三週間前まで詩を書き続け、遺作が今月発売の雑誌「新潮」に掲載されます。その作品の最後には「命あるすべての不死を密かに寿(ことほ)ぐ」と結ばれているそうです。まもなく冬休み。静かに谷川さんの詩集を手にとり、彼の言葉をたどってみたいと思います。(渡)